

令和8年4月22日

令和7年度情報学部数理データサイエンス AI 教育プログラム

自己点検・評価・改善計画書

情報学部 教育内部質保証委員会
情報学部 数理・データサイエンス・AI 教育プロジェクト WG

「情報学部数理データサイエンス AI 教育プログラム」令和7年度開講状況について以下の評価項目に沿って自己点検・評価を行った。またこの結果に基づく改善の方向性についてもまとめた。

1. 教育プログラムの点検・評価

点検項目1. 教育プログラムを構成する科目について、本プログラムに必要な学習項目に基づきシラバスに必要事項が記載されているか

点検結果：本学では授業目標，授業計画，評価方法を明記することを求めた「シラバスの手引き」を教員に配布してシラバスの記載について方針を示している。本プログラムを構成する授業科目においても，この手引きに沿って記入している。令和7年度開講の本プログラム関係科目のシラバスの点検を行い，プログラムの教育内容として必要な各項目が記載されているかどうか等の確認を行った。また，数理データサイエンスAI教育プログラムを構成する科目については，シラバスのキーワードに「数理データサイエンス」（または「データサイエンス」）と明記されているかを確認した。さらに，同プログラムの科目に限らず全学的な要請となっているオンデマンド授業回の有無などの明示についても，併せて確認を行った。

評価と改善計画：本プログラムを構成する各科目について，プログラムの教育内容として必要な各項目が記載されており問題ないことを確認した。学習項目に基づきシラバスに必要項目が記載されているか，今後もシラバス担当教員に徹底をはかる。

点検項目2. 教育プログラムを構成する科目について，単位取得状況，学生の履修状況

点検結果：令和7年度の学修状況についてデータを用いて分析，点検を行った。履修状況・単位取得状況は総じて良好であり，問題はなかった。一例として1年次プログラム必修科目（3学科共通）「数理・データサイエンス入門」については95.5%の単位取得率であり，授業回ごとの小テストの合格率の分析を行ったところ，本試験・追試験の2回の受験でほとんどの学生が合格水準に達していた。さらに小テストの結果から授業内容ごとの難易度調査を行い，難易度が高い授業内容を洗い出した。令和7年度末時点で，本プログラム「応用基礎レベル」の修了者は，学部全体で577名（情報科学科268名，行動情報学科60名，情報社会学科249名）に達した。

評価と改善計画：単位取得状況については，各科目とも高い取得率であり大きな問題はないと評価できる。「数理・データサイエンス入門」については科目内の小テストの分析も行われ科目単位での履修状況の分析も可能な範囲で行われている。また，難易度調査を行い難易度の高い授業内容についての教材などの改善をはかっている。各学科の教育プログラムを構成する科目については，今後修了者数の推移や科目内容の検証を通じて本プログラムの難易度を評価し，科目の見直しを検討していく。

点検項目3．教育プログラムの内容・構成について，ステークホルダーの関係者らとの意見交換等を行っているか

点検結果：

「数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム特定分野会議」に参加し，理工系モデルシラバスの授業計画に準拠した標準教材の作成に協力のうえ，コンソーシアム会員校へ公開している。令和7年12月には，特定分野会議（自然科学系・情報科学）広報作業部会主催のシンポジウムを実施し，標準教材の活用をはじめとする教育の深化に向けた授業設計や実践事例の紹介を通じて，意見交換を行った。

また，「数理・データサイエンス・AI教育プログラムダイバーシティ推進会議」に参画し，参加大学（静岡大学，筑波大学，お茶の水女子大学，琉球大学）間でダイバーシティ推進の取り組みについて協議した。令和7年度は，ジェンダーギャップ解消に向けた数理・データサイエンス用出前講義コンテンツおよび広報用チラシの作成を行うほか，コンソーシアムを通じた情報発信，シンポジウムの開催，ロールモデル集の共同制作，アンケート調査の実施などを推進した。

さらに，全国コンソーシアム会議・総会にも参加し，文理を問わず全学部での教育環境を充実させるとともに，産業界と連携した教育の質向上に向けた議論を行った。そこでは，データサイエンスやAIの実践的な活用や，教育の効果検証の必要性など，今後の数理・デ

ータサイエンス・AI教育のあり方について多角的に意見を交わした。

評価と改善計画：学内の教職員集団だけでなく、学外の関係者と意見交換する機会が持たれている。令和8年度においても上記と同等の取り組みを継続する。ただし企業関係者については、必ずしも情報学部生の就職先企業に限定した調査・意見交換は行われていない。本プログラム第一期生が令和6年度末に卒業したことを踏まえ、今後は就職先企業と卒業生の学修成果・能力等に関する意見交換を進める必要がある。部分的な取り組みとして、先述のロールモデル集作成のために卒業生にヒアリングを実施させていただく際、学生時に学修した数理・データサイエンスに関わる知識や実習経験と、就職先における業務内容との関連性について情報収集を行っている。

点検項目4．フルオンライン教育で実施された科目について、学生のオンライン上での学修状況の点検が行われているか

点検結果：オンラインで行われた「数理・データサイエンス入門」科目での学生の学修状況については、学生の小テストの受験率、合格率等を分析し学修状況の把握を行った。また学生に対して全学的な履修状況等を確認する授業アンケートを実施し学修状況等の把握を行った。離脱率、合格率ともに問題ない水準であることを確認した。

評価と改善計画：オンライン上での学修については、各種データの分析やアンケートの実施が行われており、点検が行われていると評価できる。

点検項目5．学生の学修を支援する体制は整っているか

点検結果：本学では全ての授業についてシラバス内に質問を受け付ける方法や時間帯などの記載が義務付けられており、また情報学部教員は全員がネットワークを介した学生とのコミュニケーションに精通しているため、電子メール、オンライン会議室、SNS などを通じて学習指導を行うことができる。演習科目については、各授業で大学院生のチューター・TA が配置され学生のサポートを行っている。例えば、1年次入門科目である「数理データサイエンス入門」（本プログラム必修科目）に対しては、ティーチングアシスタントを雇用してオンライン・対面でのヘルプデスクを常設しており、疑問点などの相談をいつでも受け付けている。特に令和7年度は、数理データサイエンス AI 教育プログラムの修了認定を受けた学生を対象に認定終了後アンケート調査を行い、今後の学修支援の参考にしている。

評価と改善計画：科目ごとに質問窓口の設定と周知，学部生・大学院生を活用したチューター・TA による個別の支援体制が整えられており問題はないと評価できる。今後，教育プログラム認定終了後のアンケート結果を引き続き学生の学習支援に反映していく。

点検項目 6．教育プログラムの成果について，学外に公開されているか

点検結果：本教育プログラムの目標や授業内容等については，Web ページおよび授業科目の実践について報告した論文，学外関係者との意見交換会等を通じて公開している。数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム会員校に対して理工系標準教材（動画教材集）の提供・公開を行うとともに，応用基礎レベルの中核科目「データ処理演習」においては，講義動画のYouTube公開および専用Webサイトを通じた実習用データ・資料の一般公開を実施している。さらに，構築した教育計画や教材を活用し，地域の産学官連携組織HEPT（Hamamatsu Embedded Programming Technology Consortium）を通じて地元企業の社会人に向けた「AI活用講座」を開講し，地域産業界への教育還元を行っている。

評価と改善計画：教育プログラムについての情報発信や学内外への周知については，様々なチャネルで行われている。現時点での成果については学内外に広く公開されていると評価できる。今後はSNS など様々なメディアを通じた情報公開についても検討する。また，理工系標準教材策定にあたり，授業内容の具体的な例としてモデルカリキュラムの教材が提供し公開されている。さらに，社会人向けの数理・データサイエンス・AI導入レベル動画教材を完成した。